

環境経営活動レポート

平成30年度

対象期間 平成30年6月～令和元年5月



発行日：令和元年7月10日

組織概要

事業所名 / 株式会社 小柳技建

代表者名 / 代表取締役 富澤善和

所在地 / 本社 : ☎812-0043 福岡市博多区堅粕3丁目15番31号
粕屋営業所 : ☎811-2244 糟屋郡志免町志免中央4丁目7番13号

環境管理責任者 / 営業部 瀬戸

環境管理事務局 / 総務部

連絡先 /  Tel : 092-451-0055
 Fax : 092-451-0079
 E-mail : info@koyanagigiken.co.jp
 URL : <http://www.koyanagigiken.co.jp>

事業内容 / 建築、土木工事の設計、監理、施工
宅地建物取引業

許可番号 / 建設業許可 : 福岡県知事許可(特-29)第10938号
一級建築士事務所許可 : 福岡県知事登録(1)第10722号
宅地建物取引業 : 福岡県知事(8)第9799号

創業 / 昭和52年2月

事業規模 / 従業員数 : 9人
事務所床面積 : 89.30㎡
倉庫床面積 : 39.39㎡

対象期間 / 6月 ~ 翌年5月

認証、登録の対象範囲

対象活動 / 建築、土木工事の設計、監理、施工
一級建築士事務所登録
宅地建物取引業

対象事業所 / 本社・粕屋営業所

環境経営方針

<企業理念・行動指針>

当社は、ますます深刻化する地球温暖化や今後予想される地下資源の枯渇への対応が重要であると考えます。建設業を行う企業として事業活動が地域及び地球環境に与える影響について配慮し、社員全員が環境保全への思いを行動に移すことにより、環境負荷の低減を図り、未来の世代のため無理・無駄・ムラのない持続可能な活動に取り組みます。

1 環境への負荷を軽減するため、環境目標及び環境活動計画を作成し以下の取組を行います。

環境に配慮した製品の使用、省エネ及び節電による二酸化炭素排出量の削減

建設リサイクル法に則った資材の有効活用及び廃棄物の分別と
適切なりサイクルによる廃棄物排出量の削減

節水等による水使用量の削減

化学物質の適正使用及び適正管理

グリーン購入の推進

環境に配慮した建物の提案、設計、施工

2 関係する環境関連法規等を遵守します。

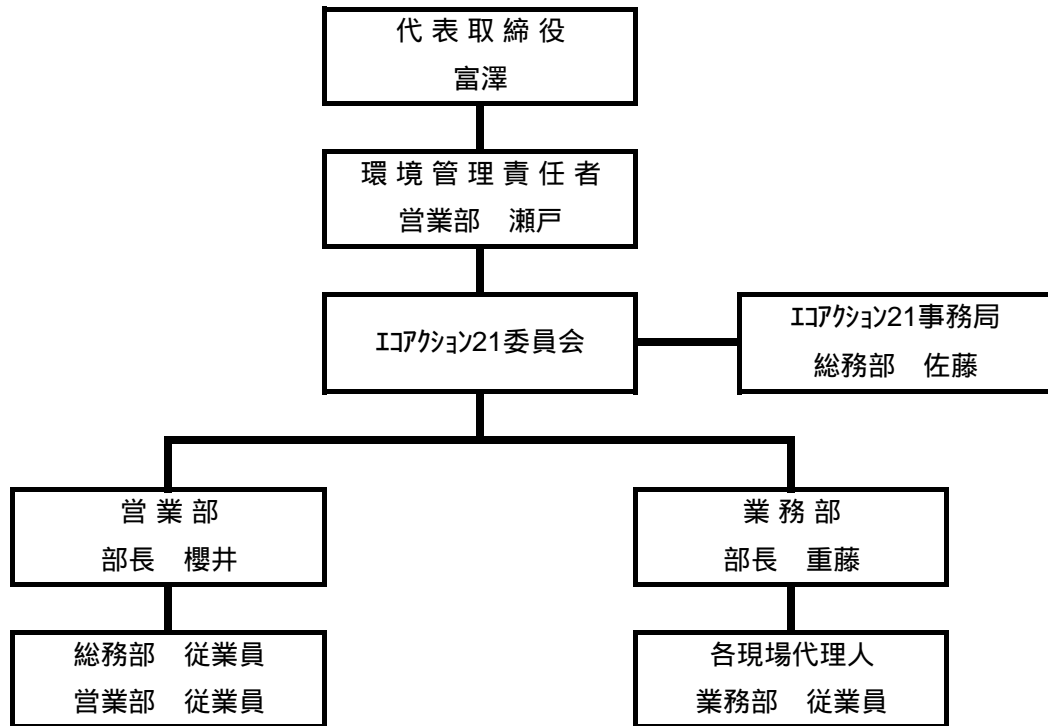
3 環境方針は全社員に周知し、環境保全活動を推進します。

平成26年 8月 7日（制定）

平成28年 6月 1日（改定）

代表取締役 富澤善和

実施体制



役割分担表

所属	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ 環境方針を作成・見直し、従業員に周知する 環境管理責任者、ICアクション21事務局員を任命する 環境への取組を実施するための資源(人・物・金)を準備する ICアクション21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムを構築し、実行・維持する 環境経営目標、環境経営活動計画を作成する 取組結果を代表者へ報告する
ICアクション21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1カ月に1回開催し、環境目標及び環境活動計画の実施状況を審議する
ICアクション21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐し、ICアクション21文書の作成・維持・集計・管理を行う 社外からの環境状況の収集と伝達を行う
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標達成の為、自部門の環境経営活動を推進する 自部門で発生した問題点の是正処理、予防処理を実施する 自部門に関連する法律規制等を遵守する 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する 自部門の教育訓練を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境経営への取組の重要性を自覚する 定められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動に参加する

環境経営目標(H30年～令和元年)

				基準年	中・長期目標					
環境目標項目				区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (基準1%削減)	平成29年度 (前年1%削減)	平成30年度 (前年1%削減)	令和元年度 (前年1%削減)
						H27.6～H28.5	H28.6～H29.5	H29.6～H30.5	H30.6～R元.5	R元.6～R2.5
1	二酸化炭素排出量の削減		全体	kg - CO ₂	28280.7	27997.9	27717.9	27440.7	27166.3	
			事務所	kg - CO ₂	23005.4	22775.3	22547.6	22322.1	22098.9	
			現場	kg - CO ₂	5275.3	5222.5	5170.3	5118.6	5067.4	
	電気使用量の削減		事務所	kWh	14459.0	14314.4	14171.3	14029.6	13889.3	
			現場	kWh	7154.0	7082.5	7011.6	6941.5	6872.1	
	化石燃料使用量の削減		事務所	ガソリン	ℓ	6073.0	6012.3	5952.1	5892.6	5833.7
				LPG	kg	13.9	13.8	13.6	13.5	13.4
ガソリン			現場	ℓ	338.80	335.4	332.1	328.7	325.4	
2	廃棄物排出量の削減									
	一般廃棄物排出量の削減		事務所	kg	170	168.3	166.6	165.0	163.3	
	産業廃棄物リサイクル率の100%維持		現場	%	100	100.0	100.0	100.0	100.0	
3	水使用量の削減		事務所	m ³	57.0	56.4	55.9	55.3	54.8	
			現場	m ³	97.64	96.7	95.7	94.7	93.8	
4	化学物質の把握と適正管理		現場	物件	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	
5	グリーン購入の推進		事務所	-	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	
			現場	-	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	
6	環境に配慮した工事の提案、設計、施工		現場	物件	2	2	2	3	3	

【備考】

- ・ 二酸化炭素排出量の計算は九州電力㈱の平成29年度二酸化炭素排出係数(0.463kg - CO₂/kWh)を使用しました。
- ・ 区分の【事務所】は本社と粕屋営業所、【現場】は各現場とします。
- ・ グリーン購入の推進目標を、購入割合【%】から【優先購入】へと変更しました。

環境経営目標(中長期：令和元年～令和3年)

				基準年	中・長期目標					
環境目標項目		区分	単位	平成27年度 (実績)	平成30年度 (前年1%削減)	令和元年度 (前年1%削減)	令和2年度 (前年1%削減)	令和3年度 (前年1%削減)		
				H27.6～H28.5	H30.6～R元.5	R元.6～R2.5	R2.6～R3.6	R3.6～R4.7		
1	二酸化炭素排出量の削減		全体	kg - CO ₂	28280.7	27440.7	27166.3	26894.7	26625.7	
			事務所	kg - CO ₂	23005.4	22322.1	22098.9	21877.9	21659.1	
			現場	kg - CO ₂	5275.3	5118.6	5067.4	5016.8	4966.6	
	電気使用量の削減		事務所	kWh	14459.0	14029.6	13889.3	13750.4	13612.9	
			現場	kWh	7154.0	6941.5	6872.1	6803.4	6735.3	
	化石燃料使用量の削減		事務所	ガソリン	ℓ	6073.0	5892.6	5833.7	5775.4	5717.6
				LPG	kg	13.9	13.5	13.4	13.2	13.1
現場			ガソリン	ℓ	338.80	328.7	325.4	322.2	319.0	
2	廃棄物排出量の削減									
	一般廃棄物排出量の削減		事務所	kg	170	165.0	163.3	161.7	160.1	
	産業廃棄物リサイクル率の100%維持		現場	%	100	100.0	100.0	100.0	100.0	
3	水使用量の削減		事務所	m ³	57.0	55.3	54.8	54.2	53.7	
			現場	m ³	97.64	94.7	93.8	92.9	91.9	
4	化学物質の把握と適正管理		現場	物件	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	
5	グリーン購入の推進		事務所	%	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	
			現場	%	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	優先購入	
6	環境に配慮した工事の提案、設計、施工		現場	物件	2	3	3	3	3	

【備考】

- ・ 二酸化炭素排出量の計算は九州電力㈱の平成29年度二酸化炭素排出係数(0.463kg - CO₂/kWh)を使用しました。
- ・ 区分の【事務所】は本社と粕屋営業所、【現場】は各現場とします。
- ・ グリーン購入の推進目標を、購入割合【%】から【優先購入】へと変更しました。

環境経営活動計画

1 二酸化炭素排出量の削減

活動期間については、すべて「通年」となっております。

取組目標		区分	達成手段
1	電気使用量の削減	事務所	1 昼休み時間の消灯
			2 照明器具・エアコンの定期清掃や適正管理
			3 エアコンの適温調整
		現場	1 昼休み時間の消灯
			2 エアコンの適温調整
2	ガソリン使用量の削減	事務所	1 エコドライブの推進
		現場	1 エコドライブの推進
			2 倉庫の一括利用で無駄な走行を減らす
			3 エコカーの導入などの車両の見直し

2 廃棄物排出量の削減

取組目標		区分	達成手段
1	一般廃棄物排出量の削減	事務所	1 コピー用紙の両面使用
			2 共有フォルダを使った印刷物の削減
			3 ゴミの分別によるリサイクルの徹底
2	産業廃棄物リサイクル率の向上	現場	1 マニフェストによる適正管理
			2 ゴミの分別によるリサイクルの徹底

3 水使用量の削減

取組目標		区分	達成手段
1	水使用量の削減	事務所	1 節水ラベルの掲示
			2 散水ホースの先にストッパーを取り付ける
		現場	1 節水ラベルの掲示
			2 散水ホースの先にストッパーを取り付ける

4 化学物質の適正使用及び適正管理

取組目標		区分	達成手段
1	化学物質の適正使用及び適正管理の徹底	現場	1 使用する材料のSDSを現場事務所及び作業員の休憩所で閲覧できるようにする

5 グリーン購入の推進

取組目標		区分	達成手段
1	再生資源の購入	事務所	1 コピー用紙や文房具などはグリーンマーク製品を優先して購入する
		現場	1 工事現場での建築資材や備品は再生材製品を優先的に購入し、使用する

6 環境に配慮した提案、設計、施工

取組目標		区分	達成手段
1	環境に配慮した建物の提案、設計、施工の推進	現場	1 エコ給湯システム設置の提案の推進
			2 LED照明設置の提案推進
			3 太陽光発電システム設置の提案推進

環境経営目標実績

目標値の95%以上については、達成状況は とします。

次年度の目標は、環境経営目標で策定しています。

			H30年度（H30.6～R元.5）					
環境目標項目		区分	単位	目標	実績	達成状況	結果の評価	
1	二酸化炭素排出量の削減	全体	kg - CO ₂	27440.7	21057.9		特に事務所の排出量が削減できた	
		事務所	kg - CO ₂	22322.1	17265.2		事務所照明のLED化によるところが大きい	
		現場	kg - CO ₂	5118.6	3792.7		件数が多くなかったため削減できた	
	電気使用量の削減	事務所	kWh	14029.6	11038.0		事務所照明のLED化により削減できた	
		現場	kWh	6941.5	6927.0		現場数の割には使用量は多かった	
	化石燃料使用量の削減	ガソリン	事務所	ℓ	5892.6	5227.0		エコドライブ講習の成果がみられる
		LPG		kg	13.5	9.3		最低限の使用に抑えることができています
		ガソリン	現場	ℓ	328.7	206.1		トラック使用が減ったため、目標達成
LPG		kg		-	35.8	-	現場入居者の仮住居で使用の為、目標設定なし	
2	廃棄物排出量の削減							
	一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	165.0	171.3		例年以上に大掃除で資源ごみを処分した為増加	
	産業廃棄物リサイクル率の100%維持	現場	%	100	100		分別の徹底により、目標達成	
3	水使用量の削減	事務所	m ³	55.3	41.0		現状できることは実施できている	
		現場	m ³	94.7	23.0		現場で使用する水については、工事内容に左右	
4	化学物質の把握と適正管理	現場	物件	適正管理	適正管理		規模の大きい現場はSDSにて管理	
5	グリーン購入の推進	事務所	-	優先購入	優先購入		該当する品目がある程度把握できた	
		現場	-	優先購入	優先購入		優先できるものはしっかり検討できた	
6	環境に配慮した工事の提案、設計、施工	現場	物件	3	3		エコ給湯器、オール電化の提案	

二酸化炭素排出量の計算は九州電力㈱の平成29年度二酸化炭素排出係数(0.463kg-CO₂/kWh)を使用しました。

区分の【事務所】は本社と粕屋営業所、【現場】は各現場とします。

グリーン購入の推進目標を、購入割合[%]から【優先購入】へと変更しました。

環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価 並びに 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度の目標は、環境経営目標で策定しています。

1 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	区分	達成手段	状況
1 電気使用量の削減	事務所	昼休み時間の消灯	
		照明器具・エアコンの定期清掃や適正管理	
		エアコンの適温調整	
	現場	昼休み時間の消灯	
		エアコンの適温調整	
評価・次年度の取組内容等			
事務所の照明のLED化は電気使用量に大きな影響を与えている 今後は事務所内のパソコンの買い替え等も検討していきたい			
2 ガソリン使用量の削減	事務所	エコドライブの推進	
	現場	エコドライブの推進	
		倉庫の一括利用で無駄な走行を減らす	
		エコカーの導入などの車両の見直し	
	評価・次年度の取組内容等		
エコドライブを意識して運転するだけでガソリン使用量には影響をあたえる タイミングがあればエコドライブ講習を受講していきたい			

2 廃棄物排出量の削減

取組目標	区分	達成手段	状況
1 一般廃棄物排出量の削減	事務所	コピー用紙の両面使用	
		共有フォルダを使った印刷物の削減	
		ゴミの分別によるリサイクルの徹底	
	評価・次年度の取組内容等		
廃棄量の計量により、よりごみの削減意識を全員に周知することができている 再資源ごみの分別についてもあたりまえになってきている			
2 産業廃棄物リサイクル率の向上	現場	マニフェストによる適正管理	
		ゴミの分別によるリサイクルの徹底	
	評価・次年度の取組内容等		
現場において、協力会社にたいしていっかりの廃棄物の排出方法の指導がなされている 今後は削減についても現場でしっかり協議していきたい			

3 水使用量の削減

取組目標	区分	達成手段	状況
1 水使用量の削減	事務所	節水ラベルの掲示	
		散水ホースの先にストッパーを取り付ける	
	現場	節水ラベルの掲示	
		散水ホースの先にストッパーを取り付ける	
	評価・次年度の取組内容等		
事務所の水使用については、ある程度最低限の使用量で推移している 今後は雨水等の使用についても考えていきたい			

4 化学物質の適正使用及び適正管理

取組目標	区分	達成手段	状況
1 化学物質の適正使用及び適正管理の徹底	現場	発注先への適正管理の徹底を行う。規模の大きな現場はSDSにて確認	
	評価・次年度の取組内容等		
しっかりと管理がなされ、適正に使用されている			

5 グリーン購入の推進

取組目標	区分	達成手段	状況
1 再生資源の購入	事務所	コピー用紙や文房具などはグリーンマーク製品を優先して購入する	
	現場	工事現場での建築資材や備品は再生材製品を優先的に購入し、使用する	
評価・次年度の取組内容等			
<p>なにかグリーンマーク商品なのかを各自ある程度把握できるようになってきた 今後もできる限り優先して購入していきたい</p>			

6 環境に配慮した提案、設計、施工

取組目標	区分	達成手段	状況
1 環境に配慮した建物の提案、設計、施工の推進	現場	エコ給湯システム設置の提案の推進	
		LED照明設置の提案推進	
		太陽光発電システム設置の提案推進	
評価・次年度の取組内容等			
<p>省エネ・エコが当たり前になっている状況のため、比較のお客様には話がしやすい 今後は環境配慮についての社員の知識向上にも目を向けていきたい</p>			



グリーンカーテンに挑戦しました。今年はゴーヤを植え、収穫までしっかりできました。



事務所のリサイクルごみ。計量したうえで軽トラで回収業者まで持ち込みます。

環境関連法規等の遵守状況及び確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- ・ 当社の事業活動に適用される環境関連法規等は次のとおりです。
- ・ 令和元年7月1日に下記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果違反等はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

適用される関連法規等	適用される事項（施設・物質・活動等）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 （廃棄物処理法）	事業系一般廃棄物の適正処理 産業廃棄物の適正処理（マニフェストの管理）
建設工事に係る資材の再資源化に関する法律 （建設リサイクル法）	特定建設資材の再資源化の報告と記録
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 （オフロード法）	現場で使用の該当建設機械
騒音規制法	特定建設作業の届出
振動規制法	特定建設作業の届出
使用済自動車の再資源化等に関する法律 （自動車リサイクル法）	事務所管轄の該当自動車
特定家庭用機器再商品化法 （家電リサイクル法）	事務所管轄の特定家庭用機器
建築基準法	特定建設作業の基準
グリーン購入法	環境物品等の購入
福岡市グリーン購入ガイドライン	福岡市が重点的に推進する環境物品等の購入及び使用 をしよう努める
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検

代表者による全体評価と見直し

『全体評価』

今年から事務所で始めた『グリーンカーテン』は、数値的な成果以上に効果がでている。夏場に限らず、事務所に植物がある環境は今後も引き続き維持していきたい。事務所の照明をLED化したことにより、電気使用量は削減することができた。パソコンの買い替え時期ということもあり、今後はそちらも検討していきたい。規模の大きな現場においては廃棄物の保管方法や管理は十分に徹底されているが、小規模の現場についてはまだまだ改善する余地はあると思われる。規模の大小にかかわらず、しっかり意識して業務をおこなっていきたい。

『見直し』

産業廃棄物管理について、意識の向上と情報の水平展開を図るために『特別管理産業廃棄物管理責任者』の講習を2名が受講した。今後は有資格者がいなければ受注できない工事等も増加していくことが想定されるため、ゆくゆくは業務部全員を資格保持者としていきたい。